

米証券大手リーマン・ブラザーズが経営破綻し、世界が「一〇〇年に一度」の経済危機に包まれてから一年を迎えました。

日本国内でも雇用の悪化に歯止めがかからず、七月の完全失業率は過去最悪の五・七％。有効求人倍率も〇・四二倍で、三カ月連続で過去最悪を更新しています。

（『朝日新聞』8月29日）

このような経済危機の中で、五万社超の会員を有する倫理法人会には、「これくらいの不況に負けてたまるか」と真正面から逆境と向き合い、労使一体となって不況を乗り越えるべく行動を起こしている経営者も少なくありません。「倫理法人会憲章」活動指針の第三項において、「『明朗』『愛和』『喜働』の実践により、躍動する職場づくりを推進する」と掲げていますが、その活力源となるのが朝礼の実施です。

茨城県倫理法人会に所属するホテルYでは、今年三月から「職場の教養」を使った活力朝礼を実施しています。常務である若女将とのQ&A形式により、その取り組みの状況をご紹介します。

Q・活力朝礼を導入された動機は？

A・十五年程前からミーティングの必要性を感じていましたが、従業員の勤務時間帯がバラバラなので実施できませんでした。昨年五月に倫理法人会に入会し、MSで開始前にやっている「役員朝礼」に参加して、「これならわが社もできる」と判断し社長に相談したところ、ふたつ返事で導入することができました。

Q・活力朝礼を導入する以前の社風は？

A・従業員とパートさんとのコミュニケーション



## 活力朝礼を導入し 元気みなぎる職場を

え・牧えみこ

「たかが朝礼、されど朝礼」です。

数年間、T県が全倫理法人会員に「朝礼に関するアンケート調査」を実施したところ、実施率は28％にすぎませんでした。もちろん県により単会により異なるでしょうが、活力朝礼は倫理研究所が熱くお勧めしている強力な「商品」の一つです。「職場の教養」を使った活力朝礼は、会員の皆様の「特権」とも理解して頂くべきものです。

先の見えない不況を乗り越えるためにも、ぜひ朝礼に着手していただき、またすでに実施している企業においては、さらに創意工夫を重ね、「より明るい、元気のみなぎる朝礼」の実践を重ねていきましょう。

シヨンが今ひとつ噛み合わず、お互いを思いやる雰囲気ありませんでした。お客さまに対して「サービスしてやっている」といった不遜な態度が露わでした。経営者もそれを見て見ぬふりで、「おもてなし」とは大きく離れたものでした。

Q・活力朝礼を導入して良かった点は？

A・一日一回全員が集まることにより、皆が笑顔で仕事をスタートできるようになった。お客さまからのクレームが徐々に少なくなってきた。全従業員が進んで仕事に取り組みむようになった。従業員同士の中傷もなくなり風通しがよくなった。不思議なことに、朝礼中にお客さまからの予約の電話が入るようになった。

Q・今後、どのような朝礼を目指していきたいですか？

A・より明るく楽しい職場になるよう、元気な朝礼を目指していきたいです。